



発掘だより

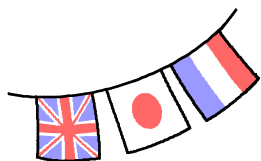
23号 2006.09



寺町シリーズ第3段

『暑さ寒さも彼岸まで』とよく言われますがこの時期になると、頬をつたう風も心地よく感じます。田畑のあぜにも赤い彼岸花（別名・曼珠沙華）が咲いているのを見かけた人もいることでしょう。また、運動会はどうだったかな？暑い中、頑張って練習した成果を出すことが出来ましたか？

* 彼岸花・『天上の花』という意味でおめでたいことが起こる兆しとも言われています。



前月号で紹介された勝瑞にあった多くのお寺は、江戸時代に徳島城下の寺町に移転しています。今回はその中の持明院にスポットをあててみました。

戦前の 持明院跡

右の写真は戦前の徳島城下の寺町です。中央に見えるのが持明院の三重塔です。持明院は1585年（天正13）蜂須賀家政が入国とともに勝瑞から移転しました。江戸時代には、寺領百石の広大な境内を有していました。



【阿波名所図會より】

この図會は大瀧山持明院の全景が描かれています。



【戦前の持明院跡・（徳島県立文書館所蔵）】

阿波名所図會では山腹には「滝、観音堂、祇園社、行者堂、三十三所観音堂、八祖堂、坊舎、十宜亭、大塔」、山下には「仁王門、本堂（本尊薬師如来）、方丈、庫裏、天神社絵馬堂、八幡宮」があったことが知られます。明治になり蜂須賀家が公式祭事を神式に改めたため、保護がなくなり、さらには寺領も廃止され、明治4年には廃寺となりました。昭和20年7月3～4日にかけての徳島空襲で仁王門、本堂（薬師堂）、三重塔、祇園社が焼失しました。

平成18年 持明院跡

これが現在の寺町の風景です。戦前と比べてく
ださい。鷺の門を起点にした五街道の一つ、伊予
街道が付近を通っています。そこを往来する人の
宿とされ、徳島藩の交通政策上重要視されたの
が持明院でした。持明院が他の寺院より先に寺町
に移されていたのは、そのためでしょうか。



【現在の持明院跡】



【勝瑞の伝持明院跡】

伊予街道・・・徳島城下から吉野川南岸を西に進み
伊予国境の境目峠に達する街道で、伊予本道、伊
予往還、川南街道とも呼ばれました。現在の国道192
号は、ほぼ伊予街道のルートに沿っています。

持明院跡は現在、天理教徳島教区にある方
丈の庭、滝不動、再興された薬師堂、三
重塔に至る石段、塔跡に建立された聖観音
堂で知ることができます。

勝瑞の持明院跡と伝えられるところです。



9月11日～15日まで四国大学の学生達が実習に来ていま
した。現場での掘削や精査、レベルを使った測量や平板測
量、遺物の洗浄やトレース、接合、最終日には四国霊場
第5番札所地藏寺で阿波水軍の総帥、森甚太夫家のお墓の拓本
を採りました。未来の学芸員がここから生まれてくるかもしれ
ませんね。

左の拓本は、先日採った物です。

墓石には、森新正氏が蜂須賀家政に従って朝鮮に渡った
後病で亡くなり、文禄5年7月1日に釜山の海に葬られたと
書かれていました。

sachiko.k

問い合わせ先



藍住町教育委員会 社会教育課

勝瑞城館跡 発掘現場事務所

TEL・FAX (088) 641-3466

URL : <http://www15.ocn.ne.jp/~shouzui/>

E-mail : syugomachishouzui@air.ocn.ne.jp